

仕 様 書

1. 委託業務名

実験動物飼育管理業務 (動物種：マウス、ラット)

2. 受託の本旨

実験動物飼育管理業務は、動物実験施設本館の飼育実験動物を良好な状態で維持し異常事態が発生しないよう管理することを目的とする。飼育実験動物に異常事態が発生した場合は、速やかに公立大学法人九州歯科大学（以下「甲」という）に連絡し、甲の指示のもと最善の措置を講ずるものとする。受託業者（以下「乙」という）の勤務時間外に発生した措置についても甲の指示のもと乙が行う。

3. 業務内容

(1) 実験動物の日常飼育管理作業（最大収容ケージ数 約500ケージ）

- ア. 飼育室内温湿度の確認
- イ. 給餌給水 《※特殊給餌・制限給餌給水を除く》
- ウ. 飼育動物の異常チェック、状態観察記録
- エ. 給水瓶、ケージ及び蓋の交換、洗浄、所定場所への運搬（給水瓶は週2回全交換及び必要に応じて補充、ケージ及び蓋の交換は基本週1回、これに実験者の要望等あれば、それに応じた給餌・給水・ケージ交換作業を行う。）
- オ. 汚物の区分け、廃棄
- カ. 飼育器材等の滅菌、消毒《※オートクレーブによる滅菌》（適宜）
- キ. 飼育室内の清掃・消毒
- ク. 感染性のある寄生虫、病原体を持つ動物の管理は甲が行う
- ケ. スクリーン汚物処理（月1回）

(2) 動物飼育関連区域の定期的作業

- ア. 廊下、更衣室、飼育室前室、作業員控室、倉庫の清掃・消毒（適宜）
- イ. 飼育室内フィルター交換・洗浄（ダクトは週1回の洗浄・消毒、プレフィルターは月に1回、HEPA フィルターは必要に応じて。）

(3) 実験動物の導入時の検収作業

検収に必要な事項（外貌検査、体重測定、性、数、規格、健康状態）の確認と記録（動物の導入がある場合は全て）

(4) 飼育器具、機材及び飼育機械設備の保守点検

(5) 飼育管理作業の記録整理

7. 飼育管理日誌の作成及び提出

4. 購入器材・飼料の在庫記帳

(6) その他の関連業務

7. 館内履物消毒作業(月 1 回)

4. 施設館内衣の洗濯、所定場所への整理 (週 2 回)

(7) 飼育室内での乙の飼育用作業衣は乙が準備する

(8) 動物実験施設新規利用者への利用方法説明 (必要に応じて)

4. 受注者及び業務従事者に求められる条件等

(1) 業務従事者は、「3. 業務内容」に示す全ての業務を実施できる者とし、常に善良な管理者の注意義務をもって業務にあたるものとする。

(2) 業務従事者の 1 人以上は、公益社団法人日本実験動物協会が認定する実験動物技術者資格(2 級以上)を有し、且つ動物実験施設での実務経験を有するものとする。

(3) 乙は、業務従事者の中から責任者を選任し、甲へ文書にて通知するものとする。なお、責任者に変更がある場合は、事前に文書にて届け出るものとする。

(4) 飼育マウス等への様々なウイルス等の感染や汚染を避けるため、業務従事者は、齧歯類又はウサギを自宅等で飼育していない者とする。

(5) 乙は、実験動物の感染症防止・動物の愛護及び福祉に関して定期的な業務従事者の教育訓練を行い、資質の向上に努めるものとする。

(6) 実験動物に関する知識、技術を教育されたものとする。

5. 業務日、業務時間(実働時間)及び契約期間における業務総時間数

(1) 平日(土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日(以下「祝日」という。)並びに年末年始休暇を除く月から金曜日まで)は、8 時 30 分から 17 時 15 分まで(実働 7 時間 45 分)【総業務時間数: 約 1,890 時間】

業務従事者は、実験動物技術者資格(2 級以上)を有し、且つ動物実験施設での実務経験を有するものを含むこと。

(2) 4 日以上連続の指定日(5 月 2 日から 6 日まで、9 月 19 日から 23 日まで)は 1 日を業務日とし、その代休を取得することができる。詳細は事前に打ち合わせるものとする。

業務従事者は、原則、動物実験施設での実務経験を有するものを含むこととし、事前に甲の了解を得た場合は、この限りではない。

(3) 動物実験施設及び実験動物の管理運営上、作業時間を変更する必要がある場合は、甲乙協議の上、定めるものとする。

6. 委託期間

令和8年4月1日から令和8年9月30日まで

7. 契約終了時の引き継ぎ

甲は、契約終了後、乙または後任事業者による業務継続が円滑に行われるよう、必要な引継資料の提供及び説明、技術的助言等が無償で提供するものとする。乙は、当該引継ぎに要する作業について、追加費用を請求してはならない。